

研究代表者氏名	喜田 宏		研究組織	8人		
所属機関・部局・職	北海道大学・大学院獣医学研究科・教授		所属機関所在地	札幌市		
研究課題名	動物インフルエンザウイルスの生態解明と新型ウイルス対策					
研究の概要等	<p>インフルエンザは地球上に最も広く分布する人獣共通感染症であり、効果的な予防・制圧法が確立されていない疫病である。本研究の目的は、家禽、家畜およびヒトのインフルエンザによる被害を未然に防ぐため、動物インフルエンザウイルスの生態を解明して、新型として出現し得るウイルスの予測ならびにインフルエンザの予防と制圧に資することである。概要は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動物インフルエンザのグローバルサーベイランスによるウイルス分布の解明 2. ワクチンおよび診断抗原ウイルス候補株の系統保存と供給 3. ウイルスの宿主域と病原性決定因子の同定およびインフルエンザの伝播と重篤化のメカニズムの究明 4. 呼吸器粘膜と全身の免疫を賦活する安全で効果の高いワクチンの開発 5. 従来の治療薬と標的の異なる抗ウイルス薬の開発 6. 感染早期迅速診断法の開発 					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>・ Watanabe T, Watanabe S, <u>Kida H</u>, Kawaoka Y.: Influenza A virus with defective M2 ion channel activity as a live vaccine. <i>Virology</i> 299: 266-270, 2002.</p> <p>・ Ninomiya A, Ogasawara K, Kajino K, Takada A, <u>Kida H</u>.: Intranasal administration of a synthetic peptide vaccine encapsulated in liposome together with an anti-CD40 antibody induces protective immunity against influenza A virus in mice. <i>Vaccine</i> 20: 3123-3129, 2002.</p> <p>・ 喜田 宏：自然界におけるゲノムプールと新型インフルエンザウイルス. <i>現代医療</i> 34: 1041-1046, 2002.</p>					
研究期間	平成15年度～18年度（4年間）					
研究経費	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計
（16年度以降は内約額）	千円 35,400	千円 14,700	千円 14,700	千円 14,400	千円	千円 79,200
ホームページアドレス	http://www.hokudai.ac.jp/veteri/					